

国境を越えて広がる「世界市民」のメッセージ

21世紀のネットロア 「100人の村(住人)」に手紙を書こう

ネットを駆け巡った1通のメールが、一粒の種となって、まるでタンポポの綿毛が遠い空を旅してゆくように、世界に広がって、人と人をつなぎました。そしてメールを受け取った一人ひとりの思いが注がれて、やがて絵本「世界がもし100人の村だったら」という花を咲かせたのです。

インターネット時代にこうして生まれた物語は、「ネットロア」—インターネット・フォークロア(民話)—と名付けられました。

「世界がもし100人の村だったら」、私たちの世界はどんなふうに見えてくるのでしょうか？

自分とはちがう人たちがたくさんいることに、まず驚くかも知れません。今までは考えてみたこともなかった世界の姿が見えてきませんか？

家があること、食べ物があること、文字が読めることは、すばらしいことだと気づいた人もいます。

そして、同じ「村」に暮らすみんなが幸福に生きることが「平和」だとしたら、私たちはその目標に向かってまだたくさんの仕事をかかえているということにも。

あなたの心には、どんな「村」の風景が広がったでしょうか？

あなたも、この「ネットロア」の「村の住人」に一通の手紙を書いてみませんか？



イラスト：山内マシミ ©2008 kayoko Ikeda, Magazine House, Printed in Japan

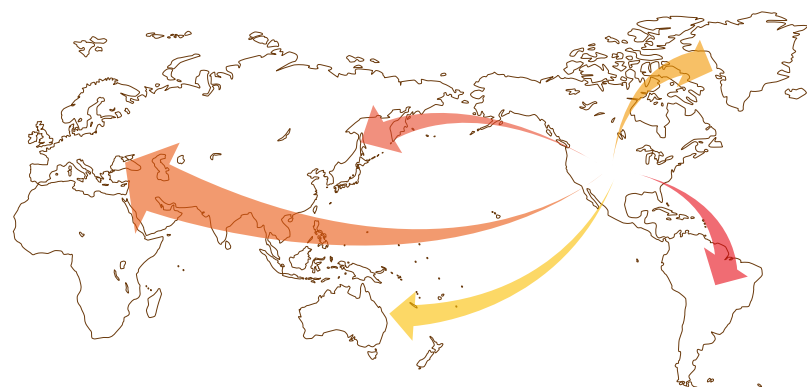
「100人の村」というネットロア

1990年5月31日、ある一編のコラムが、アメリカの新聞数紙に掲載されます。その「村の現状報告」(The State of the Village Report)と題されるコラムを執筆したのは、環境科学を専門とするドネラ・メドウズ(Donella Meadows, 1941-2001)。その内容は、世界を1000人の村にたとえ、村の現状を—村を構成するわたしたちの多様性(人種・言語・宗教など)や、村が抱える様々な問題(貧困や差別など)を—報告したものでした。その後、このコラムはメールを介して人から人へと転送され、その過程で村の人口は1000人から100人へと縮小し、加筆や削除を重ねながら、「村」の現状に関心を寄せる数多くの人々によって生まれ、やがて「ネットロア」として伝播していくこととなります。

こうして生まれた「100人の村」は、英語圏を中心に伝わっていたようですが、2001年前後から世界的な広がりを見せはじめます。日本でも、メールやファックスを通して伝わった「ネットロア」が学校や地方紙で取り上げられていくうちに、「ある学級通信」となって日本中に広まっていきました。そして、この『世界がもし100人の村だったら』という絵本として出版されたのです。(2001年12月 第1刷、総集編 2008年10月 第1刷)

絵本を読んだ人は、世界が「100人の村」に縮小され抽象化されることで、かえって「村」の複雑で多様な現状が浮き彫りとなり、「村」の抱える問題がより身近なものとして感じられることに驚いたことでしょう。そして、そこで提示されたわたしたちの「村」の現状に衝撃を受け、この現状を少しでも多くの「村人」たちに知ってもらいたいと思ったことでしょう。それが「100人の村」というネットロアが生まれ、多くの人々によって育まれてきた所以です。もちろん、世界が「100人の村」に縮小され抽象化されることによって、見えなくなってしまう差異や問題があること、絵本で示されたもの以外にも様々な視点や尺度があることに、わたしたちは留意しなければなりません。また、この「村」には「100人の村人」の他にも、多くの動物や植物が暮らしていることも忘れてはならないでしょう。

地球のみんながつながっていることをこのようなかたちで表現した新しい物語を、さらに未来の物語へと育てていく役割をわたしたちは担っているのです。



参考書籍：『世界がもし100人の村だったら 総集編』
(池田香代子再話、株式会社マガジンハウス、2008年)

第10回 (2009年度) 津田塾大学 高校生エッセー・コンテスト 募集要項

① 手紙形式のエッセー募集

絵本「世界がもし100人の村だったら 総集編」を読んで、あなたの心には、どんな「村」の風景が広がったでしょうか？あなたの思いを「100人の村(住人)」あての手紙という形式で書いてみてください。

② 応募資格

高校生(国籍・学年・性別は問いません。)

③ 応募方法

英語の場合は400words程度、日本語の場合は1,200字(横書き)程度、英語・日本語ともA4用紙でワープロ・手書きいずれも可。

※別紙(A4判)に、氏名(フリガナ)・性別・高校名(所在県名)・学年・〒住所・電話番号を記載して、表紙として原稿に添付し、郵送してください。

④ 募集期間 2009年8月1日(土)~9月1日(火)(消印有効)

⑤ 賞金等

最優秀賞1名(賞金5万円を贈呈。10月11日(日)津田塾大学において表彰します。)優秀賞若干名(賞金1万円を贈呈。)
最優秀作品は津田塾大学広報紙 *Tsuda Today* と津田塾大学ホームページに、優秀作品は津田塾大学ホームページに掲載・公表します。応募作品は返却しません。応募作品の著作権はすべて津田塾大学に帰属します。

⑥ 入賞者発表

10月12日(月)までに入賞者本人に通知します。
(津田塾大学ホームページには10月12日(月)以降掲載します。)

⑦ 提出先・問い合わせ先

〒187-8577 東京都小平市津田町2-1-1
津田塾大学「高校生エッセー・コンテスト係」
TEL:042-342-5113 / E-mail:essaycon@tsuda.ac.jp

<http://www.tsuda.ac.jp> 津田塾大学ホームページで、第1回~9回の高校生エッセー・コンテスト選考結果等を掲載しています。

“If you can speak and act according to your faith and your conscience without harassment, imprisonment, torture or death, then you are more fortunate than 48, who can not.”

（世界がもし100人の村だったら
EDITION 2008
英訳 C.ダグラス・ラミス）

一つの「100人の村」の住民としてわたしたちは
きっと何かできるはずですよ。

さまざまな対立をかかえる世界が、一人ひとりの心の声を聞いて
より自由な村をつくって行くにはどうしたらよいのでしょうか？

If the world were a village of 100 people

「世界がもし100人の村だったら」は2001年に出版されて以来、これまでに160万部を超えるミリオンセラーになりました。ドネラ・メドウスが書いた1000人村のエッセーが100人村のメールに変化して、インターネット・フォーフロア(民話)ーネットロアーとして世界を巡って絵本になりました。口承の物語には複数の作者がいて、一人の作者の作品ではなく、みんなの物語として伝わっていきます。ネットロア「100人の村」も、いろいろな人たちが好きなフレーズを書き加えたりして、少しずつ今のよう形になってきたのです。世界中に問題がたえない現代だからこそ、わたしたちがひとつの村となって共通の未来を考えていくことに多くの人々が共感したのではないのでしょうか。

.....
In the world today, 6 billion 700 million people live.
If this world were shrunk to the size of a village,
what would it look like?
If 100 people lived in this village,

50 would be women,
50 would be men.

28 would be children,
72 would be adults,
among those,
7 would be aged.

90 would be heterosexual,
10 would be gay or lesbian.

83 would be non-white,
17 would be white.

60 would be Asians,
14 Africans,
14 from North and South America,
11 Europeans,
and the remaining one
from the South Pacific.

33 would be Christians,
20 believers in Islam,
13 would be Hindus, and
6 would follow Buddhist teaching.
5 would believe that
there are spirits in the trees and rocks
and in all of nature,
23 would believe in other religions,
or would believe in no religion.

わたしたちは、世界という一つの村にさまざまな違いを持って生まれてきて、生きています。「いろいろな人がいるこの村ではあなたとは違う人を理解すること、相手があるがままに受け入れること、そしてなによりそういうことを知ることがとても大切です」——これが、ネットロア全体をとおして伝わってくるメッセージです。

.....
In such a village, with so many sorts of folks,
it would be very important to
learn to understand people different from yourself,
and to accept others as they are.

.....
Of the wealth in this village,
1 own 40%,
49 people own 51%, and
the poorest 50 people
share the remaining 1%.

.....
82 people have some supply of food and a place to
shelter them from the wind and the rain, but
18 do not. 18 have no clean, safe water to drink.

.....
If you have money in the bank,
money in your wallet and
spare change somewhere
around the house,
you are among the richest 8.

If you have a car,
you are among
the richest 7.

.....
Among the villagers
1 has a college education.
18 use internets.
20 cannot read.

.....
If you can speak and act
according to your faith and your conscience
without harassment, imprisonment,
torture or death,
then you are more fortunate than
48, who can not.

.....
If you do not live in fear of death
by bombardment, armed attack,
landmines,
or of rape or kidnapping by
armed groups,

then you are more fortunate than
20, who do.

.....
In one year,
1 person in the village will die,
but, in the same year,
2 babies will be born,
so that at the year's end,
the number of villagers
will be 101

.....
If you can read this e-mail,
that means you are thrice-blessed.
First, because someone thought of you,
and sent you this message.
Second, because you are able to read.

.....
Third, and most important,
because you are alive.

このネットロアのもうひとつの重要なメッセージは、言葉、人種、宗教、経済格差などによって対立しがちな世界をひとつの村と見ることで、村人たちがお互いに助け合うことを目指すことではないでしょうか。開発や発展だけを目標して来たわたしたちが、貧困や戦争といった究極の不幸につながる無関心を、お互いにやさしいまなざしをなげかけるようにかえていければ、問題を解決する道になるでしょう。皆がそうした気持ちを持てるようになって初めて、わたしたちは理想の「100人の村」への一歩を踏み出していけるのです。

.....
Someone once said:
What you send out
Comes back again.

So sing
from the bottom of your heart,
dance with your body
waving free, and live,
putting your soul into it.
And when you love,

love as though you have never been wounded,
even if you have.

.....
And love the fact that
you, and others, live here,
in this village.

.....
Perhaps,
if enough of us learn to love our village
it may yet be possible to save it from
the violence that is tearing it apart.



うばい合うことよりもあたえ合うこと、取り合うよりも共有することを知ること、わたしたちはよりよい未来をという希望をかなえることができるはずですよ。
100人村のネットロアは、「まずあなたが愛してください。あなた自身と、人がこの村に生きてあるということ」と呼びかけます。
「もしもたくさんのわたし・たちがこの村を愛することを知ったならまだ間にあいます。人びとを引き裂いている非道な力からこの村を救えます。きっと。」